

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

（平成 28 年 9 月 7 日 午後 2 時 10 分）

●議長（小林幸雄） それでは、会議を再開いたします。
通告の 4 荒井賢蔵議員。

- 1 TPPについて
- 2 ごみ問題について
- 3 町立病院について

議席番号 13 番・荒井賢蔵議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 議席番号 13 番・荒井賢蔵です。質問に入る前に、北海道や東北で先日の台風による大雨などによる被害に遭われた皆さんに、心よりお見舞いを申し上げます。また、当町に被害がなかったことを大変嬉しく思います。これからも台風やゲリラ豪雨がないことを願うものであります。

まず、TPPに関する質問をいたします。

私は、一般質問で幾度も TPP 問題を取り上げてきました。それなのに、またなぜ取り上げるのかと言えば、TPP を巡って、これから行われる国会が山場と言われているためであります。安倍自公政権は、今度の国会で TPP を批准しようとしていると報道されております。この TPP に関しては、自民党も公明党も以前は反対としておりました。また、この TPP に関する交渉内容を国会で公表するよう迫られた時、提出したコピーは真っ黒に塗りつぶされたものでした。安倍総理は事あるごとに、国民にしっかり説明し理解を得る、としておりましたが、選挙で多数を占めたとたん、公約なんてどこ吹く風という感じであります。TPP が批准されれば、農業だけでなく、医療、保険をはじめ、日本のあらゆる分野で悪い影響を受けることとなります。具体的に動き出せば、日本の農業は壊滅的打撃を受けることになると、多くの人たちが反対をしております。国は、あまり影響ない、としているし、長野県も、影響はない、としています。しかし一方では、300 億円近い影響があるだろうとの試算もされております。その影響のあるのは、多くは米と酪農だとも言われております。信濃町の農家の多くは米農家であり、超低価格の輸入品により、農家経営の困難が予想されます。

そこで、町として、もし TPP が批准、開始されたなら、米価はどのような水準になると予想しているのか、伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 荒井賢蔵議員さんにお答えをさせていただきます。今、TPP 問題についての御質問でありまして、そしてまた、もし、これが発効と言いますか、されたら、米はどうなんだと、こういう御質問でございます。

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

私は、この前にも荒井議員さんの御質問、確かあったかと思いますが、その時も申し上げさせていただきました。今、この T P P 交渉の中では、米についてはアメリカ、オーストラリアから特別枠として 7 万 8000 トンでしたか、というような数字が、特別枠として交渉の結果としてなっていると、こういうことございまして、当面は、一般米価、農家の米価に直接的に影響しないというふうに言われております。しかし私は、この前も申し上げたとおりに、最終的にはどういうふうはこの米価に影響してくるのかなということを、非常に心配もするわけでございます。今朝の新聞にもありましたけれども、政府与党ですかね、自民党ですか、あのプロジェクトチームの協議を再開するんだと、こういうことございまして、中身的な問題が、おっしゃるように、まだしっかりと私どもにも伝わってこないし、農家の皆さん方にもしっかりとまだ伝わっていないというのが現状だろうと思うんですね。したがって、その辺の、今後、情報がどういうふうに出てくるか、そしてまた国に対してはしっかりと情報を提供してほしいと、こんな思いで見守らせていただくし、米価も含めて T P P 交渉についても注視をしていきたいというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 農水省の調査では、稲作農家が他産業並みの労賃を確保するためには、14 年産米の場合、米 60 キロ当たり 1 万 5416 円が必要ということであります。しかし、現実には 1 万円前後でした。あの年は国が輸入米を入れたため、暴落でした。このように、輸入米により国内の米価は大幅に下がってしまい、原価をはるかに下回ってしまいます。そうすると、米を作れば作るほど赤字になるということです。T P P が批准されたら、酪農に関しても同じように経営悪化が起きることは間違いないでしょう。

T P P が批准されるということは、信濃町の農家がこういう状況になってしまうということです。農家が収入減に落ちると、購買力が落ちることになり、町内の商店をはじめ、あらゆる面に影響が出ます。行政として、このようなことを検討したことはありますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 具体的に、この T P P にちなんで町独自でどういうふうな影響が出るかというのは、試算も当然できる状態ではありませんし、そしてまた具体的にそういう行動は、今の段階では取っておりません。ですから、先ほども申し上げましたように、国がどういうふうな中身としての政策に反映してくるのか、この辺もしっかりと見なければ、何とも言えない状況だろうというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 農家が収入減になって、そういう状況になってしまうと、購買力が

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

落ちると。で、それは町内の商店をはじめ、あらゆる面に影響してしまうと、そういうことは認めますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） これは農家だけではなくて、経済全般を考えてみれば、一つの業界があまり芳しくない方向に行ったなど、こういうふうになると、日本経済全体にも影響するわけですから、そういう意味では、広範囲な意味では、おっしゃるように影響はないとは言えないだろうというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） TPPが発効しなくても、安倍政権は 2018 年には生産調整をやめると言っております。「自由に作付けよ。その結果として米価が暴落しても、それは経営判断だ」と言って、農家の責任にしております。自民党は、まるっきり農家のことなど考えていません。このように、国は無責任な態度です。このような状況の中で、農家はその後の経営がまるで見えません。私ごとになりますが、うちの息子は今年 30 歳になりますが、農業をしております。先日、「30 年から、どうすればいいんだい」と、こう私に聞いてきました。しかし、私は何とも返答のしようもありませんでした。今、うちの経営面積は三十数町歩ほどであります。全て借りている田圃です。うちが農業をやめるということは、三十数町歩の農地が耕作されずに地主に返されることとなります。地主の皆さんは多分、耕作しないでしょ。米価が下がり放題下がってしまう状況の中で、誰が米を作りますか。多分、する人はいなくなるのではないのでしょうか。農家は自分の食いぶちは作るでしょうけれども、経営としてはやらなくなるのではないのでしょうか。そんなことを考えたら、お先真っ暗になります。

町長は、どのように、こういうことを考えるのか、伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、荒井議員が言われましたように、30 年度で、2018 年でしたか、2018 年にいわゆる生産調整が全廃されるということでもあります。私、このことが直接 TPP との中身と関係あるかどうかは、あまりそこまで勉強していないものですから、しかし、少なくとも今までの、昔を辿れば食糧制度ですから、そういうことからだんだん変革ができて、今回は「農家の皆さん、自由に売ってくださいよ」と、こういう体制に、いよいよ 30 年度、入ってくるわけですね。私も、この間も新しい農協さんが、JA が合併してできたわけですが、その時も後の懇談の中で、当新組合長にも申し上げたんです。今、TPP も大事だけれども、本当に目の前にある米の生産調整が全廃されて、その時にひとつ、農協さんがしっかりと、販路も含めて、価格保証も含めて、保証と言いますか価格の問題も含めて、しっかりと対応してもらいたいと、こういう要望もさせ

ていただいているわけです。要は、そういう流れの中で、本当に全体の米政策の中で、そういう流れになっているわけですから、誰が、どのように、どういう手立てで生産物を供給できるんだという体制を、やっぱり、しっかり作っていく必要があるのではないかなど。これは、個人個人の農家の皆さんは、場合によっては、それぞれ個人で販路を拡大してやっておられるという皆さんも大勢いらっしゃると思います。しかし全般的には、今までの大きな流れが、JAを中心として進めてきているのが、日本の農政かなどいうふうに思うところがありますので、そういったことを含めて、その辺をしっかりと対応していただくということが大事かなど。

町も、できることがあれば、今年も正直なところ 30 年の補助制度廃止に向けて、信濃町産のPRと言いますか情報発信も含めて、秋にイベントも、米のイベントと言いますか、計画もさせていただいたりしているところではありますが、行政としてもできるところはしっかりとしながら、取り組んでまいりたいというふうに。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 私これから、そのための手立て、支援策、検討すべきだというふうに言おうと思っていたんだけど、そういうようなことも考えているということですが、もうちょっと、具体的に何かそういうこと、検討している内容があればお願いしたいというふうに思うんですが、どうでしょうか。今現在の中で、それに向けて検討している内容があるのならば、どうでしょう。

●議長（小林幸雄） 小林産業観光課長。

■産業観光課長（小林義之） それでは、私の方から、農家支援の関係でございますけれども、基本的には、先ほど息子さんもいらっしゃるということで、やはり、担い手をどういうふうに育成していくかという部分と、やはり、それに対する農地の集積なども今後図っていかなければならないというふうに思っております。

また国の方でも、TPPに係る部分でも、支援策がいろいろな事業で補助メニューができております。そういう部分でも、町も支援する中で紹介をしていきたいと思っております。また、TPPにつきましては、収入減を想定する中で、農家の保険制度も先日、信毎にも出ましたけれども、そういう直近5年間の平均収入の8割台を確保できるような、そういう保険の制度なども新たに作るというような話もお聞きしておりますので、国の補助メニューをまた紹介をさせていただきながら、支援をしていきたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 町としても、是非、そういう支援策も更に検討して欲しいなど。是非、今後についてはお願いしたいというふうに思います。

今一番大事なことは、まず T P P を批准しないことだというふうに思うわけです。T P P を批准すれば、先ほども言いました、うんと安い米が入って来るのは目に見えているわけですからね。しかし、安倍自公政権は 10 月頃の批准を目指したいというふうに報道しているという、先ほども言いました。させないためにも、多くの自治体から反対の声を上げることが必要だろうというふうに思うわけです。もちろん、我々農業者も上げていくわけですが、自治体の長として、信濃町としても、国に意見書を上げる必要があるというふうに思うんですが、町長の考えを伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） いろいろな意味で、T P P の利点、弊害もあるのだろうと思うんですね。私はやっぱり今、国がそのことをもって強い農業を作っていくということを基本的なスタンスにして、この農業、農協改革も含めて、今までも進めてきているんだろうなというふうに思うんです、今までの動きを見ていますと。その中で確かに、私ども主要産業の農業である米というのは、大変大事な要素であります。そういう中では、このことが将来に向けて、どういうふうに発展するのかということも含めた場合に、今の、決して T P P が 100 パーセント悪いとか何とかという立場ではないんだろうなと。荒井議員さんは、基本的には「もうそのことはやめた方がいいよ」と、こういうお立場であります。私はやっぱり、グローバルなこの世界経済も含めて考えてみた時に、農業の行く末も、しっかりと国際的な位置付けというのは、今後は必要になってくるだろうと。その中で、T P P もまさに、主要 5 品目というようなことで、守るのはしっかり守りますよという姿勢を打ち出しているわけですから、そのことで、私はあえてこの T P P に関連して、自治体の長として、反対の請願なり要望をするということは、今の段階では特に考えておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 町長は、そういうことを国に申し上げていく意思はないということですが、しかし、やはり、T P P をやられれば、明らかに農産物はどんどん入って来ますよ。確かに安倍総理の立場で、言うことはいいですよ、「米をいっぱい作って、どんどん外国に売ればいいじゃないか」と。しかし、そんなの外国に出すのなんか一部ですよ、出ていくとしても。実際は、なかなかそんなわけにはいかない。我々がそこまで、できるわけもない、というふうに私は思うわけです。実際、強い農業、本当に強い農業って、できるというふうに私は思えないんですよ。米価が下がっていく中で、米を自由に作ることによって強い農業、なんてことはあり得ないというふうに、私は思っております。是非、この T P P については我々も今後も大いに反対の運動もしていきたいなというふうに思っております。

次に、ごみ問題に入ります。

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

ごみ問題は、先ほど森山議員が質問しました。重なっている部分も若干あるかもしれませんが、その辺はお許しを願いたいなというふうに思います。

北部衛生センターでのごみ処理は、昭和 47 年に運転を始めてから 44 年になる。その後、平成 7 年から建て替えがあって、現在になっていると。で、28 年度の実績により、広域化された時の大豆島での処理量、これ 30 年度、28 年度の実績によってその後の負担が決まるというようなことも聞くわけですがけれども、信濃町として、この間、ごみの減量化について、もう言われてきたわけですがけれども、具体的にどのように取り組んできたのか、その辺をお聞きしたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 今までなんですけれども、ごみの分別化を強力に進めてまいってきたのが実情でございます。それと、今年からにはなってしまうけれども、家庭用のごみ処理機への購入の補助金というものも行っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 「ごみ処理機に、補助金をやるよ」というふうに予算化したわけですがけれども、今現在の実績、どのような状況になっているのでしょうか。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 今年の 4 月からの申請になりますけれども、今現在で電気式の処理機については 2 台です。で、コンポストについては 14 基になっております。当初予定したと言いますか、こちらで予想していたよりも大分低いのが現状です。これからも、住民の皆さんに対しましては広報等で周知をしていきたいと思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 非常に、期待よりも少ないという点では、ごみの減少と言うか、そういうことには、なかなかないかなと思うので、今後も是非、頑張ってもらいたいと思うわけですがけれども、北部衛生施設組合の実績報告がありましたけれども、平成 24 年をピークに減少はしてきているんだよね、北部衛生施設組合の報告を見ると。しかし、私これ、人口減少によって減ってきているのではないかなというふうに、その程度のあれじゃないかなと思うんだけど、その辺はどうなんでしょうか。やっぱり、ごみ減少のための指導、そういう影響もかなりあるというふうに見えていますか。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

◆住民福祉課長（高橋 徹） 確かに、人口の減少によるごみの減少というのも考えられますけれども、町の方で、分別、また、生ゴミについては水を絞って出すというようなことをお願いしていますので、そういったことの積み重ねの結果だとは思っております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 隣の飯綱町では、3 人の職員が集積所を回って、そして具体的に指導しているそうであります。そして毎月のごみの実績報告、これもしているという話を聞きました。信濃町はどうでしょう。そういう、職員による減量化のための指導や、そういうあれを更にしていく、そういう考えはありますか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） ごみの減量化というのは、大事なことだと思うんですね。前にも、橋崎議員さんからもそんな質問があったりして、要はその時申し上げたのですが、町民 1 人がトマト 1 個だか何かの分、ミニトマトでしたかね、その重さを減量することで、大変な減量になるんだということを、その時もお答えをさせていただきました。そして、いかに町民の皆さん方がその減量に取り組むかというようなことで、広報等でもやらせていただいているわけでありまして。

飯綱町さんは、たまたま、最近の情報だと思うんですが、これはやっぱり、今度は有料にしたわけですね。そのこともあっての行動なのかなというふうに思います。私もそれぞれ町民の皆さん方にも、分別収集の頃、一時そんなことがあったかもしれません。しかし、今まさに、町民一人ひとりの皆さん方に意義をしっかりと認識していただいて、減量化に取り組んでいただく、こういう事が大事なので、えらい行っていて睨みを効かせたから減ったとか何とかということではなくて、まさに町民の皆さんの、本当に、なるほどこれだけやれば確かに自然環境も負荷も減る、そしてまた町にとってみれば、それぞれ加盟している組織に対する負担金も減ると、そういうことでありますから、両方ともいいことがあるわけですから、その辺はやっぱり、これからも町民の皆さんに理解していただくように PR 活動も含めてやっていくのが大事なのかなと。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 私も、町の職員に睨みを効かせろと言っているわけではありませんが、ただ、もっと積極的に、ごみの収集、減量ということに係って、積極的な指導、そういうことをしていった方がいいのではないかなというふうに思うわけでありまして。是非そういう立場で、今後も力を入れていってほしいというふうに思うわけでありまして。

次に、広域になった時のごみの収集について伺いますけれども、私は、この収集方法は従来どおりと変わらないのだろうなというふうに思っておりますけれども、それで間違いはないですか。また、町民の処理料の負担、これがどうなるのかなというところを

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

教えてほしいというふうに思いますが。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 収集につきましては、家庭から出るごみの収集等ですが、今とは基本的に変えるつもりもございません。住民の方の負担ということになりますと、今は袋を購入していただいているんですけれども、その負担のままというふうに考えております。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） そうすると、広域になっても、ごみの負担、一般の家庭からの負担料は変わらないでいこう、ということだというふうにとりつけていいわけですね、そこは。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 今のところ、そこまでは決まっておきませんので、今の段階では変わらないということになります。変わりありません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 先ほども森山さんのところでも出ましたけれども、結局、長野まで運ぶとなると、ストックヤード的なことを検討しているというふうに言ったんだけれども、もうちょっと具体的な検討の内容、分かったら説明願いたいと思うんですが、どうでしょう。

●議長（小林幸雄） 高橋住民福祉課長。

◆住民福祉課長（高橋 徹） 先ほど、森山議員さんの質問でもお答えをさせていただいたんですけれども、今、収集運搬に関しまして計画を立てているところです。いろいろ距離の関係もございます。集積所の数の関係と、また、集積所を持っていない地区などもございますので、そういうものもいろいろと鑑みながら計画を立てていますので、まだちょっと、具体的なところというところまでは、いっておりません。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） それと、先ほどの中でもありましたけれども、処理センターに直接運び込んでいた人たち、例えば、ペンションだとか、事業所の人だとか、そういう関係について、もうちょっと、今後のこととして考えていくんだというような答弁だったと

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

思うんだけど、もうちょっと、具体的に考えていることがあれば、聞きたいと思うんですが、どうでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 荒井議員さん、今、実は今予算の中でも、今年度予算として収集計画をどういうふうにするかということ、予算をお認めいただいて今年度スタートしているわけですね。今、30 年度に向けて、その収集をどういうふうにするのが一番いいかと、また、先ほどお話がありましたように、一般家庭、それから事業系のごみ、それぞれをどういうふうな形で効率良く収集運搬するのがいいかと、こういうことを今年度、今、計画で進めているわけですね、収集計画。その結果を見ないと、正直なところ何とも言えないんですね。ですから、今年その大まかな方法が決まって、よし、広域連合の方も収集方法についてはこうだよと、先ほども言いましたように、持ち込みであっても一般家庭のごみをそれぞれが持ち込むということになると、これは何て言いますか、処理場としても大変な車の往き来になるし、地元の住民の皆さん方にも大変な御迷惑をおかけするというようなことになってくるのだろうと。ですから、その辺も含めて、今一生懸命、町内の全体の収集計画についてはこういうふうにしましょうという計画を、今年度作っているわけでありますので、それに基づいて方向が定まったら、来年度は町民の皆さん方にしっかりと、こういう方法でやるんですよ、という周知期間として進めたいということで今やっていることですので、御理解をお願いします。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 分かりました。是非、そういう点で、しっかり検討した結果については、また町民に知らせてもらって、皆でゴミ問題を考えていけるようにしたいというふうに思います。

次に、病院建設について、伺います。

私はこの間、この問題を 3 月議会の時にも質問をしておりますけれども、改めて伺いたいというふうに思います。

以前、町長は、建設費の半分くらいは基金を積み立ててからでないと、として、基金を積み始めております。今回提出してある補正で 9000 万円の基金積立がありましたけれども、私は、ここに町長の姿勢が見えたということで、非常に評価したいというふうに思います。

しかし、着手するまでに何年かかるかが問題なんですね。町長は、いろいろな面があって影響があるから時期は明確にできない、というふうに前の時、答弁しました。しかし、町民はそこが一番知りたいわけですよ。「一体、病院は、いつ頃から始めるのかな」という、そういう、いつを目標としているのかなという点が、町民が一番知りたがっている内容であります。我々も一番、聞かれることでもあります。是非町長、そういう点で、

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

答えづらいのかもしれませんが、もうちょっと、町民の皆さんに、いつ頃を目途にというような、できれば答弁を願いたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 病院建設問題については、今、荒井議員さんがおっしゃいましたように、まず一つは、やっぱり財政上しっかりと対応していかなければいけないと、こういうことで、私も就任当初から、そんなことも議員の皆さん方にも申し上げてきたわけでありまして。そういう中で、今、約2年に、私なろうとするんですが、じきに。この間に、現時点では2億7000万、そして今回の補正を含めて9000万余、含めて3億6～7000万に、基金としてなろうかとしています。

こういう経過を踏まえた時に、今後の財政運営がどういうふうになるかというのは、まだ生ものですから何とも難しいところもあるのですが、建設までには、やっぱり、いろいろな検討期間含めて4・5年かかるだろうと。つまり、建設着手というところですね。具体的な着手には4・5年かかるだろうというふうに踏んでおります。ですから、その辺のタイムスケジュール的なことをしっかりと頭に入れて、今の資金的な問題も並行しながら、進めていかなければいけないという思いであります。私自身も、いつやります、と、はっきり言いたいんですよ。なかなか、そういう思いでやっているんですが、あまり無責任なことも言えませんので、しっかりとその辺の裏をもって対応したいということで、そのことに今、対応させていただいている。

ただ問題は、問題と言いますか、動きとして今、県の方でも、長野県全体の医療構想の審議会を開いておまして、そして、長野県の中でどういう医療が適切なのかと、今後を含めて、そういうことを今年度、今、審議をされているんですね。その結果も、多分、今年度末に出るのだろうと思います。

それから、もう一つは、総務省の方から、改めて公立病院に対する改革プランを作りなさいと、こういう、今、動きもあるんですね。先般、病院も、運営協議会ですか、あの中で、その辺も事務長を通して、委員の皆さん方をお願いしたという経過もあります。ですから、今までのあり方検討委員会の答申、これ極めて大事な答申でありますので、そのこともしっかりと踏まえ、そして県の今の動き、総務省の新しい改革プランも今年度中に求められている部分ですので、その辺とも整合性をしっかりと踏まえて、進めていきたいというふうに思っております。

どうなんですかね、タイムスケジュール的に言うと、やっぱり4・5年かかるということから、そして、並行して、今の基金の状況と並行していきたくてこういうことですから、必然的に、具体的な行動については、お察しいただけるんじゃないかなと。そのことが順調に進むように、努力していきたいというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13番（荒井賢蔵） この前も町長の方から出ました、過疎債が使えるうちに、というよ

うな、あれもちよっとあったかなというふうに思うわけです。確かに、建設するには大変な多額な建設費を要するということであります。今日の中でもありましたけれども、この下水道の設備の返済やら、ごみの広域連合の負担金等、いろいろ町財政も厳しい、そういう中だということは、今日の、先ほどの中でも感じ取りました、私も。

しかし、問題は、厳しい中であってもしかして、建設に向けて是非進めていきたいというような点では、財政シミュレーション、そういうものもやっぱり、必要じゃないかなというふうに思うわけで、そういうことは検討しましたか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 特にその後についての財政シミュレーション、計算したか、試算したかということについては、やっておりません。必要ならば、今後の中でやる必要があるとすれば、しっかりとやっていかなければいけないなというふうに思います。そんなことであります。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） ごみの広域連合やら、いろいろこれからかかる、そういう状況の中で、財政シミュレーションもしながら、ひとつ是非、建設に積極的に、早い時期に、というような町民の期待に応えてほしいなというふうに思います。

問題は、町長は、この病院建設について、具体的に動いているかどうかというところなんです。ということは、医師や看護師の皆さんと、施設整備とか、あるいはどんな機能を持ったとか、そんなようなことも含めて、話をしたことがありますか。どうですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私が申し上げているのは、院内のそのことも含めて、先ほど言ったようなスパンとして、進めていくということです。よろしくお願いします。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 是非、そういう点では、積極的に、早めに進めてほしいなというふうに思います。やるにつけては、医療従事者、先生や看護師さんのそういう意見も大いに取り入れながら、機能やらそういう病院機能、そういうことについても検討してほしいというふうに思います。

次に、病院の運営についてであります。

町長は、信越病院の開設者でもあります。定期的に、長としての考え方を、医療職の皆さん、先生や看護師さんやら、そういう皆さんと、協力してやって欲しいと、こうい

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

う立場でやって欲しいと、というような話し合いを、具体的にやっているかどうかを伺いたい。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 病院サイドに、私自身開設者としての意向なり意思がどう伝わっているかと、こういうことかというふうに思います。これは例えば仕事始めにしても、あるいは仕事納めにしても、機会ある時には、職員の皆さん方には、中で、私の挨拶も含めて申し上げさせていただいています。また日常の中では、院長、副院長、そしてまた、場合によれば師長とも話をさせていただきながら、思いを伝えさせていただくと同時に、病院の方のいろいろなお考えも聞くという機会を持たせていただいています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 町長にも町民の皆さんの声、届いているというふうには思うんですけども、そこをきちっと、先生や病院の皆さんに伝えていかないといけない、町民の要望が反映されないだろうというふうに思うんですよ。

具体的に言いますと、一番は、何と言っても夜間・休日の対応問題です。電話で「具合が悪いので診てほしい」と言っても断られてしまったと、それから、だから飯綱病院へ行ったとか、そういう声が、結構多く聞こえてくるわけですね。まず、そういう人たちはどう言うかという「具合が悪いんだから、まず信越病院、近い病院で診てもらって、そして駄目なら、よそへ回してもらってもいい」と、いうふうに言うわけですよ。まず、対応してほしい。いうふうに言う人が多いんですね。そういう点で、こういう対応、是非してほしいというふうに思うんですけども、そこはどうでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） そのことも含めて、院長等の、さっきも申し上げたような時に、申し上げさせていただいています。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 具合の悪い時は、いつでも診てもらえる病院、そんな自治体病院の姿が、町民が望んでいる病院の姿だろうなというふうに思うんです。そういう点で、是非、事務長さんもいろいろ院長や皆さんに言いづらい立場もあるかもしれませんが、しかし、そういう町民の声が大いにあるという点では、是非、先生たちにつなげてもらって、それで、そういう対応をお願いしてもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

●議長（小林幸雄） 北村病院事務長。

◆病院事務長（北村政光） 緊急の問題につきましては、私もいろいろと言われることがございます。この件につきましては、町長にも報告いたしまして、町長からは医局のほうにも良く伝えるようにということも言われております。私も実際、つい最近ですけれども、医局会議にも顔を出させていただくようになりまして、院長を通じまして、できるだけ、緊急には対応していただきたいというようなことを申し上げておりますが、私どもの病院につきましては、外部から、火曜日、水曜日、それから土曜日、当直の先生にいらしていただいております。曜日によりましては、内科とか外科ですと全般に診られるんですけれども、部分的な科の先生もいらっしゃいますので、そういう先生が当直になりますと、どうしても専門外ということで、また次の日に、もう少し様子を見ていただいて次の朝来ていただきたい、というようなことも、おっしゃることもあるようには伺っております。できるだけ院長、それから紹介業者等にも、診ていただくようにという申し入れはしているところです。以上です。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 今言ったように、とりあえず診て、そして専門外なもので、とりあえずは応急処置的なことはして、明日また昼間是非来てください、という対応だつて、町民にしてみればありがたいというか、具合の悪い人にとってみれば、嬉しいことなんですよ。そういうことを、町民は望んでいるので、是非とも、今後もそういう、町民に信頼され、喜ばれるような病院にしていってほしいなというふうに思います。

次に、無料低額診療制度というのがありますけれども、御存じでしょうか。知っていたら、簡単にちょっと説明をお願いしたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 北村病院事務長。

◆病院事務長（北村政光） ちょっと、お聞きしましたので、調べさせていただきました。厚労省の資料かと思うんですけれども、この事業につきましては、社会福祉法第 2 条第 3 項第 9 号の規定に基づき、「生計困難者が、経済的な理由によって必要な医療を受ける機会を制限されることのないよう、無料または低額な料金で診療を行う事業」ということとございまして、対象者につきましては、低所得者、要保護者、ホームレス、DV被害者等が規定されているようでございます。

医療提供をする側の組織等につきましては、二つのパターンがあるようでございまして、社会福祉法人、それから日本赤十字社、それから旧民法 34 条の公益法人で、こちらの法人等につきましては、その法人の基準に従いまして、今のことができるというのが一つです。それから、もう一つは、社会福祉法に基づく社会福祉事業として実施するということとございまして、これにつきましては、私ども病院もできるわけとございますが、一応いろいろと制約があるようでございますので、例えば、県知事に届け出て認可

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

を受ける、また、県は厚労省と事前協議が必要だとかいうようなことがございますので、そのような条件をクリアしないとできないような制度、というふうに調べさせていただきました。以上です。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 今、信濃町の非課税世帯は 970 から 980 戸ですか、あるというふうに言われておりますけれども、それが全てというわけではありませんけれども、しかし、中には、生活困窮者と言われるような人もいるのではないかなというように、私、憶測をしているわけですが、公的保険に入っている、窓口負担が重すぎて受診したくてもできない、なんてことかあってはいけないうちです。困るわけですよ。以前、信濃町でも、お金がなくて、体の具合が悪くても病院へかかれなくて、病院へ行った時には手の施しようがなく、死んでしまったというような人が何件かあったというふうに聞いたように記憶しておりますが、現在、そのようなことがあるかどうか、私は知りません。しかし、このような人がいたら大変なので、是非、そんな時のためにこういう制度があったらいいなと、いうふうに私は思うんです。信越病院でもこの制度を導入すべきだというふうに思いますが、町長の考えを伺います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 無料低額診療事業ということで、今、荒井議員さんからの御質問なんですけど、これ私もちょっと、その話を頂戴して、見せていただいたんです。そうしますと、いわゆる無料または低額診療事業の基準というのが、これまた、厚労省ですか、連合局の方から通知、これが正しいかどうかは、ちょっと私もあれなんですけど、つまり、その診療行為を行うにあたって、次のような条件でなければ駄目ですよというような、幾つかの、何て言いますか、基準があるんですね。で、それを見ますと、なかなか、難しいんですよ、もしこのとおりだとすれば。この信越病院でその行為が行われるかどうかというのは、やっぱり、この通知を見ますと、実際は難しい、ちょっと何回も言って大変恐縮なんですけど、難しいのかなというふうに思います。基準に合って、基準に合ってそのことでやれる医療機関として対応できますよ、ということならいいですけど、どうもそうではないような中身もあるようでございますので、いずれにしても、この辺の中身も含めて、しっかりとまた、勉強もさせていただきたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 今、町長が、内容も含めて勉強もし、検討もし、ということがございます。私も、お金がないために、先ほども言いました、病院にかかれないうちな人があっては困る、信濃町の中でね。是非、そういう点では、そういう制度があるわけですから、是非しっかり中身を検討し、そういう対応ができるなら、してほしいと思

平成 28 年第 412 回信濃町議会定例会 9 月会議会議録（3 日目）

うし、信濃町の中で、金がなくて病院かかれなくて病気になって死んでしまったなんてことのないように、そういうような行政を是非、やっていってほしいなということを強く思うわけであります。町長、再度、この辺の決意を聞いて、私は質問を終わりたいというふうに思うんですが、どうでしょう。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 要は、それぞれの、基本的には制度があるわけですから、どうしてもその制度外で対応しなくてはいけないという人も、中にはいらっしゃるのも事実だと思います。その時にどう対応できるかということは、まさに命の問題とすれば、大変重要な問題だろうというふうに思いますので、いろいろな関連機関、そしてまた、関連制度もしっかりと勉強させていただいて、どういう対応ができるかというのを、深めてまいりたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 荒井議員。

◆13 番（荒井賢蔵） 是非、信濃町でそういうような制度、これも使えるよというような方向になって欲しいなというふうに思います。町長は検討するというのでありますので、よろしくお願いをしたいというふうに申し上げまして、私の質問を終わります。

●議長（小林幸雄） 以上で、荒井賢蔵議員の一般質問を終わります。
この際、3時15分まで暫時休憩といたします。

（平成 28 年 9 月 7 日 午後 3 時 03 分）